

2014 年末～2015 年始における山の気象の記録

2015 年 3 月 (公社) 東京都山岳連盟 気象委員会

東京都山岳連盟に加盟している団体及び個人会員の協力により、各登山パーティから 5 件の 2014 年末～2015 年始における山の気象データを収集した。そのデータをまとめた資料を作成したので、気象遭難事故防止や冬山気象の研究に活用していただきたい。

期間概況

今冬の始め頃は、日本の上空にブロック現象（上層の高気圧や低気圧が停滞）が現れて、頻繁に強い寒気の流入があって、日本海側の山域や北日本の山域では多くの積雪に見舞われた。そして、年末年始の頃になると、この現象も解消をみせた。このため年末年始の頃は正月三が日に強い寒気が流入した他は、比較的穏やかな天気経過した。

山の遭難事故をみると、12 月 29 日に富士山で滑落 1 件、12 月 31 日に北ア方面と男体山で悪天により 5 件、1 月 2 日に上越と近畿方面で 2 件とがあった。いずれも遭難規模は小さく不幸中の幸いであった。

なお、12 月 30 日に気圧配置は冬型時で、南ア方面の天気予報は良いと（対象・平地）云っていたが、南アの笹山東尾根での実際の天気は曇りで時々雪の降る状態であったとの報告がある。これは気圧配置が冬型時に南ア方面は全般的に晴天域に当たるが、季節風の吹き出し時には南アの稜線部でも 1 日ないし半日位の、雪雲のかかることもあり、本格的な悪天ではない。このような現象は富士山、八ヶ岳、奥秩父でもあるので、天気予報の内容と実際の平地と山の違いを確認すると良い。

次に各日毎の気象状況を見る。

12 月 27 日

冬型の気圧配置が弱まりはじめ、日本海西部には大陸高気圧の一部が移動性高気圧となって現れてきているので、連日吹雪の続いていた北ア方面の天気も回復に向かい、燕岳方面の報告（2 件）では良く晴れて、快晴や晴れの天気が報告されている。このようなパターンでは北アに限らず、日本海側の山域や北日本の山域でも天気は回復している模様。

12 月 28 日

日本海に現れた移動性高気圧は本州の上空を東へと移動し、高気圧の後面から気圧の谷の接近が見えている。天気は今日いっぱい良いが、明日は下り坂。北アの燕岳方面では気圧の谷の接近に伴い生暖かい風が吹き、午前中の数時間内に気温が 20℃近い昇温との報告があり、夜には雪が降り出す。日中の天気は強風で快晴又は晴れで視界は良好。

12 月 29 日

南岸低気圧を伴った気圧の谷が通過し、昨夜から朝方にかけては降雪があり、各山域では、その後日中は雲は多いものの時々晴れ間が出る天気となる。

一方、南アの笹山東尾根方面は南岸低気圧の影響を受けて、曇りや霧の多い天気となる。

12 月 30 日

日本付近は気圧の谷も去り、気圧配置は冬型となる。このため北ア（燕岳付近）方面では風雪の天気となり、強風で視界は零。

一方、南アの笹山東尾根方面の稜線近くでは風雪の天気となったが、稜線から離れると曇り空で時々雪が降る程度。「天気予報では天気は良いはずだが、実際は悪天に近かった」との報告があるが、この原因については期間概況のところにて記してある。このような時には富士山や八ヶ岳でも雪雲がかかりやすい。

12月31日

気圧配置は冬型となっているが、朝鮮半島の南に弱い低気圧があるため、冬型の気圧配置は勢力が弱い。このため北ア方面の山の天気は風雪も弱く、時には晴れ間が出る天気となっている。しかし、疑似好天とは違うので注意をしたい。

一方、南ア方面では強風で晴天ベースとなっている。

1月1日～3日

1月1日は日本の上空に強い寒気が流入し、地上の冬型気圧配置も強まっている。500hPa 天気図上でも日本の上空には $-30\sim-40^{\circ}\text{C}$ 近い気温の状態を示しており、このような状態が1月3日まで続いた。

南ア（仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳）方面では1月1日は強い季節風の吹き出しにより、標高の高い稜線部は雪雲に覆われ霧の天気ですぐも混じる。1月2～3日も天気図型は冬型を示し、南ア方面の天気は晴天に恵まれる。一方、北ア方面（槍ヶ岳）は1月1日は風雪、1月2～3日は日本付近の等圧線の間隔が緩んで、季節風も多少弱まり、槍ヶ岳（山のライブカメラより）では晴れ間も出て、槍ヶ岳の雄姿が見られた。

「文責 城所邦夫」

2014 年末～2015 年始の山の気象データ

北アルプス 槍が岳・北鎌尾根 (敗退・中東沢あたりまで)

(東京都山岳連盟所属 東京ヤングクライマーズクラブ)

行程： 12月27日(土) 葛温泉～高瀬ダム～湯俣
12月28日(日) 湯俣～千天の出合の少し手前～湯俣～名無避難小屋
12月29日(月) 名無避難小屋～高瀬ダム～葛温泉

気象データ

12月27日(土) 晴れ

葛温泉～高瀬ダム～湯俣

葛温泉で、神奈川県山岳会の北鎌尾根3名、硫黄尾根3名の2パーティー、その他に水晶岳2名が1パーティーと、途中で燕岳の5人パーティーに会う。燕隊は名無避難小屋に泊まるようだ。8:30 葛温泉出発。道路は除雪してあるものの、わきには雪が積み上がっている。10:30 高瀬ダム。積雪量は10センチ。30分くらい歩くと膝くらいの雪となりワカンをつける。先行の神奈川の強力なメンバーのおかげで、ラッセル助かる。15:30 湯俣冬季小屋。硫黄尾根パーティーはさらに進み、尾根上で幕営とのことであった。私達と神奈川北鎌パーティーの5名で冬季小屋を仲良くシェアする。雪が多く、年末の予報も芳しくないため、互いにどうするか思案する。29日に南岸低気圧通過で気温上昇の予報であったため、明日は行けるところ、できれば尾根の取付きかP2くらいまでいき、29日に戻ることとする。



27日朝、葛温泉出発



ダムへの坂



ダム上の積雪計



湯俣冬季小屋

12月28日(日) 晴れ

湯俣～千天の出合の少し手前～湯俣～名無避難小屋

7:30 湯俣を出発。気温マイナス7℃。湯俣川にかかる橋と同じ高さまで雪がある。前回来た時よりも3mくらい多い。河原は雪で埋まり、歩きやすい。雪は比較的にしまっている。数か所を除き河原通しで歩けるが、谷は雪深く、先行していた神奈川パーティーにすぐに追いつく。ルンゼはすべて雪で埋まっていて、沢に下りることなくトラバースする。このトラバースは何となく嫌な感じがする。9:30 中東沢出合の手前で行き詰まり、神奈川パーティーは徒渉準備に入る。高巻を試み、雪壁を登るが、斜面の新雪の下には、薄いしもざらめ層が2層あり、簡単に手ではがせて草付きが現れる。足元も固まらない。あきらめて戻り、徒渉する。用意していたビニールをはき、ヒザ下くらいで、何とか濡れずに済む。10:00 右岸を進み、再度わたり返す。生温かい風が吹く。気温9℃。陽があたりはじめた斜面からチリ雪崩が起きる。気温上昇と明日の低気圧のことが気になり、今日中に湯俣に戻ることとする。大高巻で、再び先行に追いつき、ラッセルを交代する。樹林帯は深雪にくわえ、木にのった巨大な雪だるまが大きく枝を曲げ、行く手をふさぐ。四つん這いになったり深雪に隠れた枝や根っ子に足をとられ、数十メートル進むのに1時間近くかかる。11:00 最後の高巻の手前、ゆるいルンゼを下りるところで、気温10℃。沢中とはいえ、午前中の数時間に20℃近い昇温となる。このルンゼのトラバースもまたいやらしい。神奈川パーティーに別れを告げ、戻ることにする。彼らはトラバースしてさらに樹林帯に入っ

ていくが、なかなかに進めない。11:15 もと来た道を大急ぎで引き返す。雪は緩み、アイゼン団子になる。水量が増えたのか徒渉はヒザ上となり、二人とも靴に水が入ったが、これが最後の徒渉と思い、そのまま渡り切る。斜面からは木や岩からはがれおちた雪がコロコロと転がってきている。心配していたルンゼのトラバースはまだ陽があたっておらず、しまっていたので、ほっとする。13:00 湯俣。来るときに1か所雪崩注意の看板があり、そこは今日中に通過しておきたいと思い、名無避難小屋まで下りる(15:30)。18:00 頃、しんしんと雪が降り出す。



上流からみた湯俣川にかかる橋



沢は春山のような陽気

12月29日(月) 朝方雪～曇り 時々青空が見える

名無避難小屋～高瀬ダム～葛温泉

8:30。気温2℃。昨晚からの雪で、トレースはほぼ消えている。積雪量30センチくらいか。ワカンをつけて葛温泉に向かう。途中、いたるところで山側からの斜面から雪が崩れて林道をふさいでいる。デブリの上に新雪が積もったものがほとんどだが、今朝おちたような新しいものもある。小沢の横断の際、小さな表層が起こる。橋の上だったので難を逃れる。10:30 くらいから時々北の方角に青空が見える。振り返ると湯俣の方(南)は曇り空だ。疑似かと思うが、冬型になっているとも思えない。気温はあまり変わらず。ダムにつき、積雪計をみると40センチ近くになっている。27日は10センチであったので、一晩で30センチくらい積もったようだ。12:00 ダム下。七倉までは除雪されておらず、トンネルの外は、ヒザ下くらいの雪であった。七倉までの道路も、山側から崩れた雪で道路が半分埋まっているところがあった。14:00 くらい葛温泉。



名無避難小屋



青空がみえた



ダム上の積雪計



ダム下のトンネルの入り口

北アルプス 燕岳西尾根（仮称）～燕岳～合戦尾根 (東京都山岳連盟所属 昭和山岳会)

月 日	場 所	気象データ
12月27日	葛温泉～高瀬ダム～林道終点～名無小屋	<ul style="list-style-type: none"> ・快晴 ・大町駅前にもたっぷりの雪、この4年間で一番雪が多い。 ・天気は信じられないほどよく、高瀬の青い湖面が美しくハイキングのようだった。
12月28日	名無小屋～コジ沢出会～尾根取付 ～1880m（幕営）	<ul style="list-style-type: none"> ・快晴 ・標高1600m過ぎからは、ときどき木の間から北鎌を従えた槍が姿を見せる。 
12月29日	1880m～2130m～2400m（幕営）	<ul style="list-style-type: none"> ・雪のち晴れ ・夜中に雪が降る。出発しトレースがきれるあたりで明るくなり雪もやむ。 ・2400mにてテント設営、槍の穂先が曇っている。
12月30日	2400m～稜線～燕岳～燕山荘手前（幕営）	<ul style="list-style-type: none"> ・曇りのち吹雪 ・日本海に低気圧発生。これが抜けると急速に発達。天候はこれから年始にむけて悪くなる。 ・15:20 稜線。立ってられないほどの強風、視界ゼロ。 
12月31日	燕山荘手前～合戦小屋～中房温泉～ゲート	<ul style="list-style-type: none"> ・雪ときどき晴 ・天気は一時的に回復。

南アルプス 甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳 (東京都山岳連盟所属 東京雲稜会)

月 日	場 所	気象データ
12月31日	戸台口駐車場～北沢峠～長衛小屋（幕営）	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れのち曇り 日中は快晴。夕方雲が張り出し、夜中より朝まで風強い。 
1月1日	（幕営）～大滝頭～小仙丈ヶ岳～小仙丈ヶ岳の先にて引返し～（幕営）	<ul style="list-style-type: none"> ・曇りのち雪 日の出と共に風弱まるが雲とガスが晴れず、小仙丈の先でホワイトアウトに近い状態となり引き返す。この日も夜半より強風。
1月2日	（幕営）～仙水峠～駒津峰～甲斐駒ヶ岳～下山～（幕営）	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れのち雪 今日も完全に停滞かと思うほどのテントをたたき強風も、日の出と共に嘘のように止む。12時30分にピークを踏むとガスが出始める。夜半より早朝までやはり強風。 

月 日	場 所	気象データ
1月3日	(幕宮)～丹溪山荘～戸台口駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れ <p>この日の明け方まで一番風が残るが、日が出ると止む。不思議だ。あとは下山まで穏やかな天気。</p>

南アルプス 笹山東尾根～笹山

(東京都山岳連盟所属 Bush 山の会)

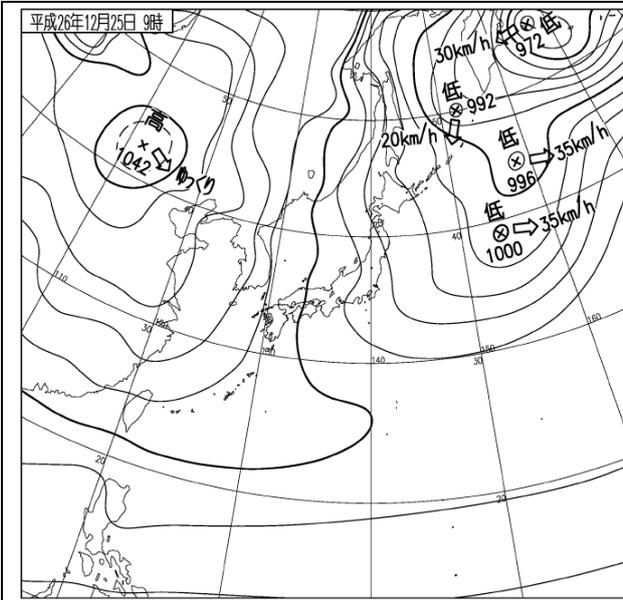
月 日	場 所	気象データ
12月28日	奈良田胡～笹山登山口～山の神～1730m 付近(BC)	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れのち曇りのち雪 ・空は青く澄んでいて気持ちのよい天気であった。
12月29日	(BC)～2100m付近～(BC)	<ul style="list-style-type: none"> ・小雪のち霧 ・今日は南岸低気圧が通過するため、午前中は停滞。午後はトレースを付ける予定にしていた。 ・起床後、外に出てみると、昨夜からの雪がかなり積もっておりトレースは完全に消えている。
12月30日	(BC)～笹山南峰～笹山北峰～(BC)	<ul style="list-style-type: none"> ・曇り時々雪 ・夜中には風はあったが、朝になったら止んで星も出していた。 ・-3℃、予報では今日は一番いい天気のはずなのに雪が舞う。 ・昼過ぎに笹山南峰に到着、展望なく雪嵐、-9℃。 
12月31日	(BC)～山の神～笹山登山口～バス停	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れ ・早朝は今までで一番風も強く寒い。 ・下山日にやっと白根南嶺の稜線が見えた。しかし天気は下り坂のはず、東の間の山の挨拶なのか。

菅平高原 根子岳

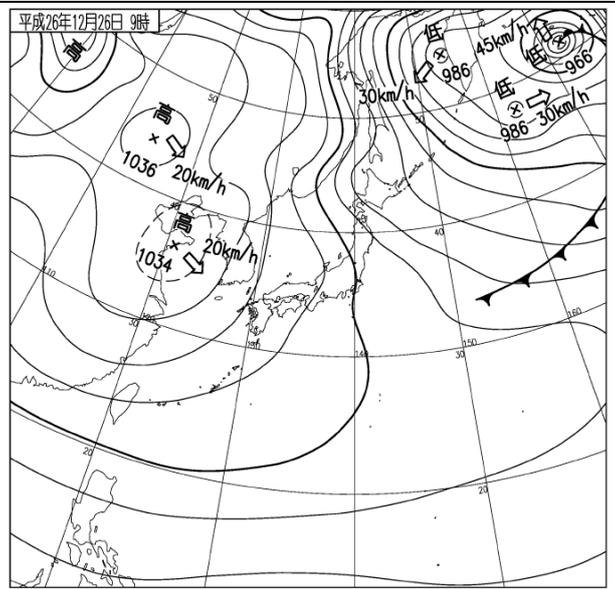
(東京都山岳連盟所属 アルプス灯会)

月 日	場 所	気象データ
12月28日	奥ダボススキー場～避難小屋～根子岳山頂(往復)	<ul style="list-style-type: none"> ・好天に恵まれた。登るほどに濃さを増す青空。見渡せば、浅間山から八ヶ岳、北アルプスの山々。山並みが美しい。 

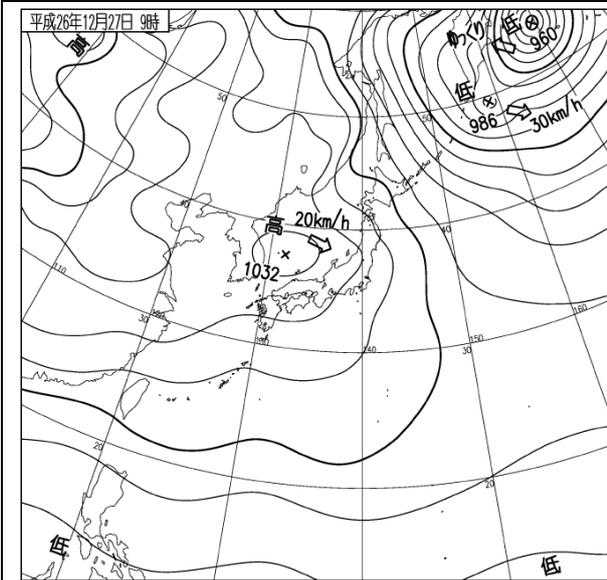
2014 年末～2015 年始の地上天気図（気象庁提供）



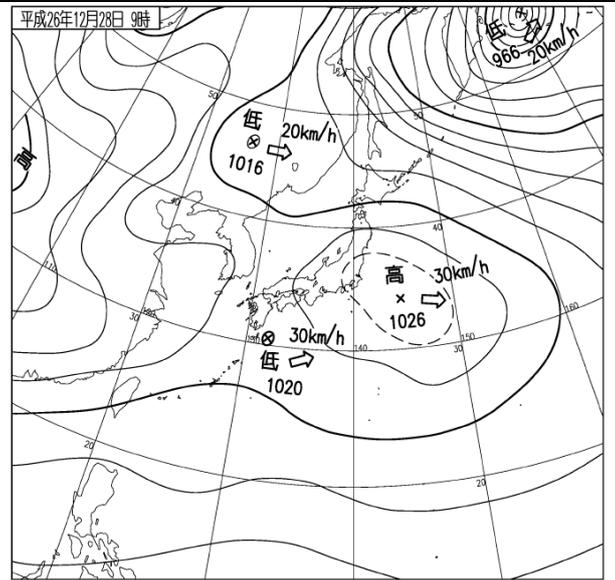
12月25日9時



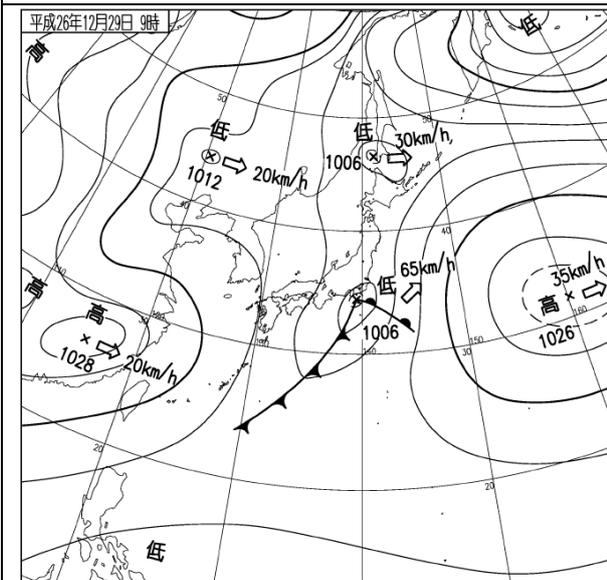
12月26日9時



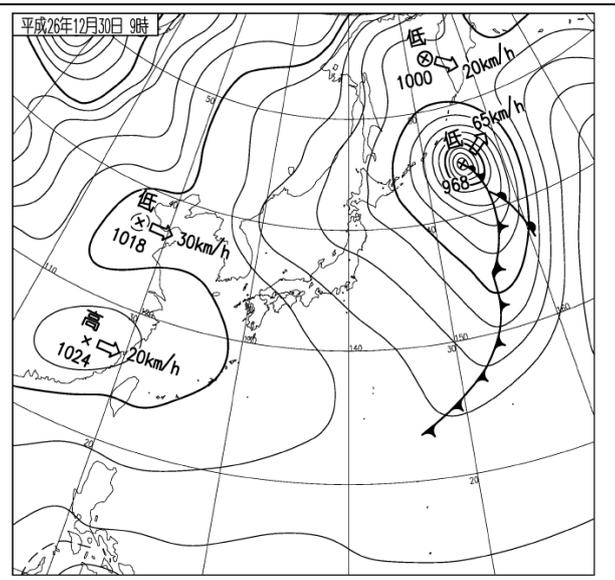
12月27日9時



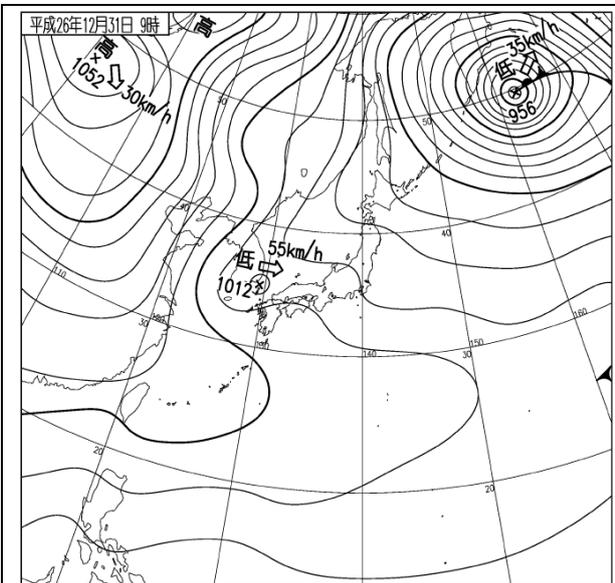
12月28日9時



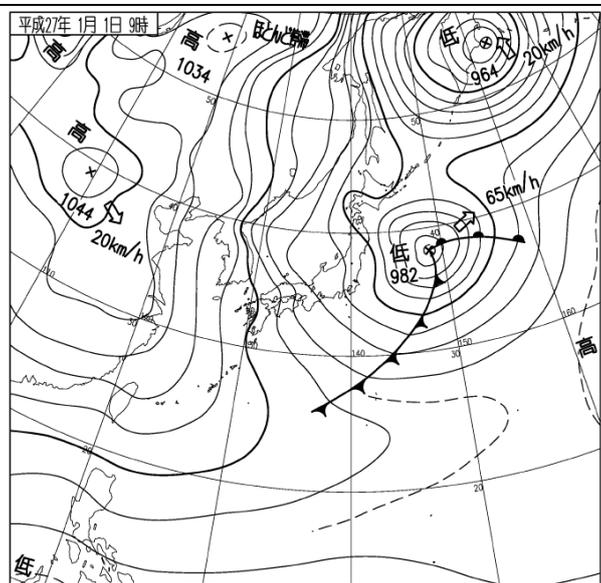
12月29日9時



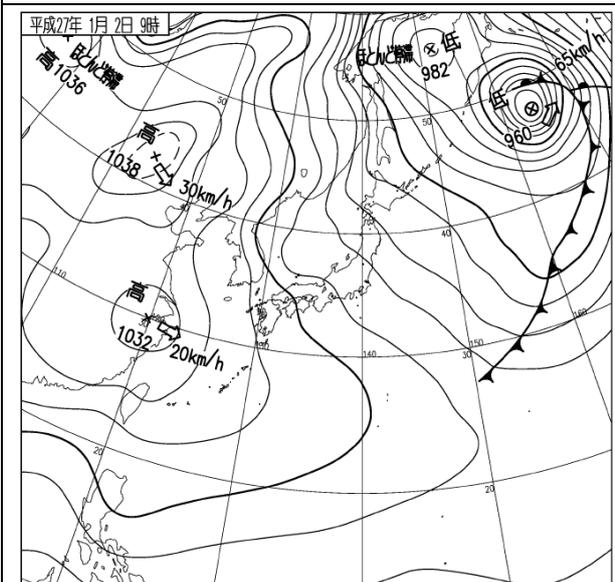
12月30日9時



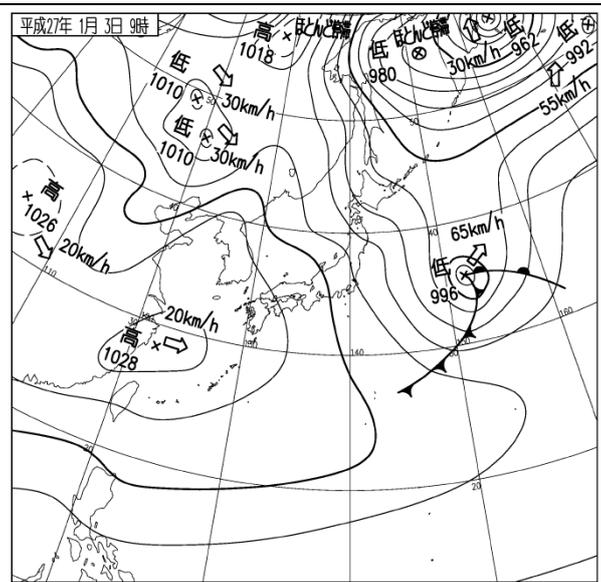
平成26年12月31日 9時



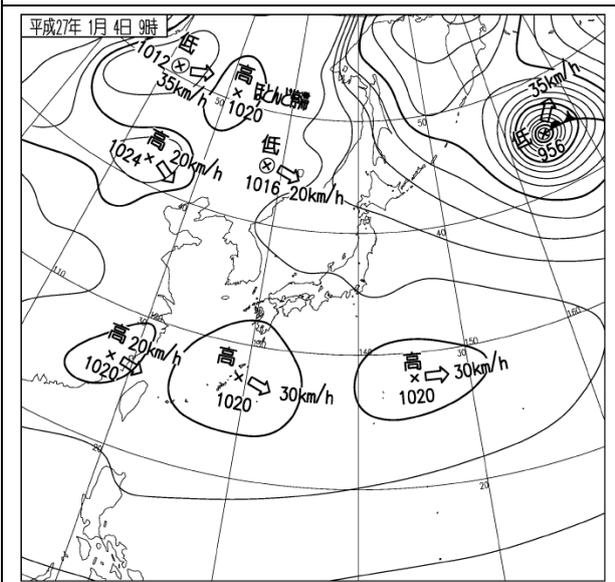
平成27年 1月 1日 9時



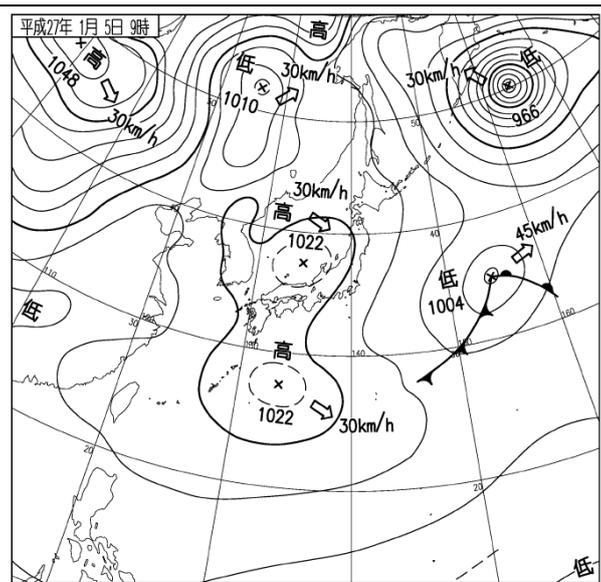
平成27年 1月 2日 9時



平成27年 1月 3日 9時

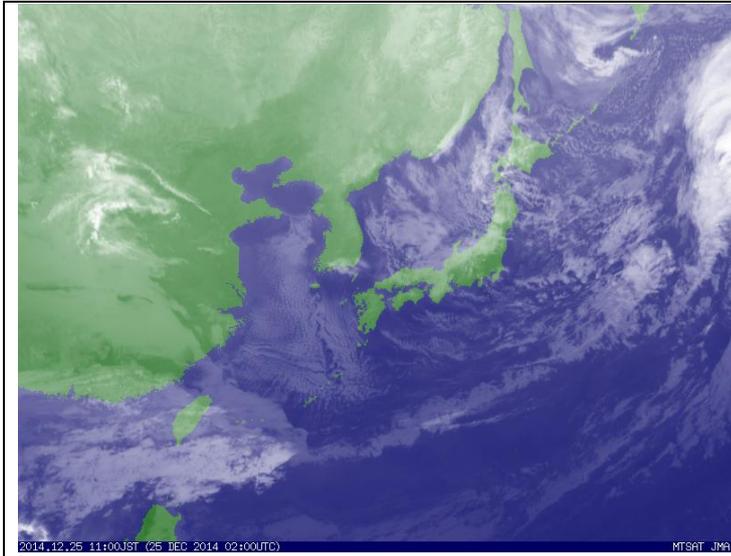


平成27年 1月 4日 9時

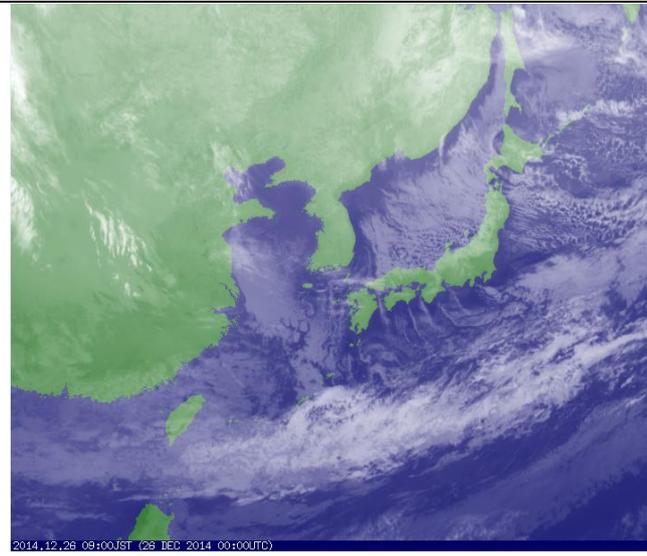


平成27年 1月 5日 9時

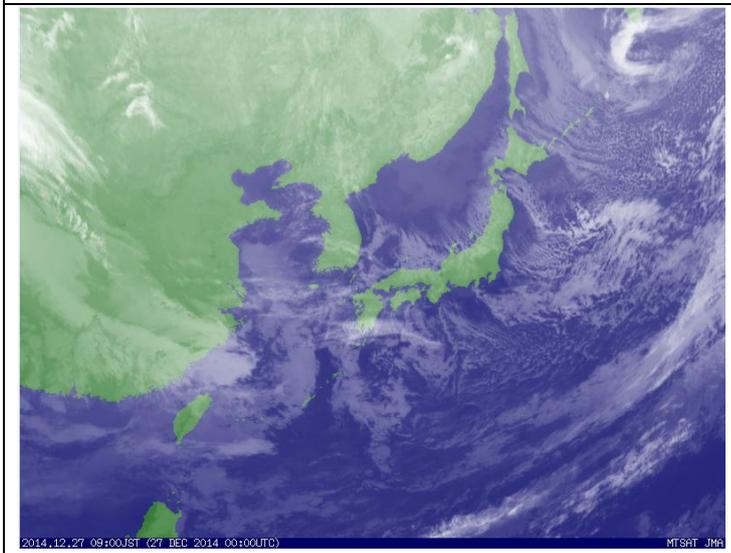
2014 年末～2015 年始の衛星画像図（気象庁提供）



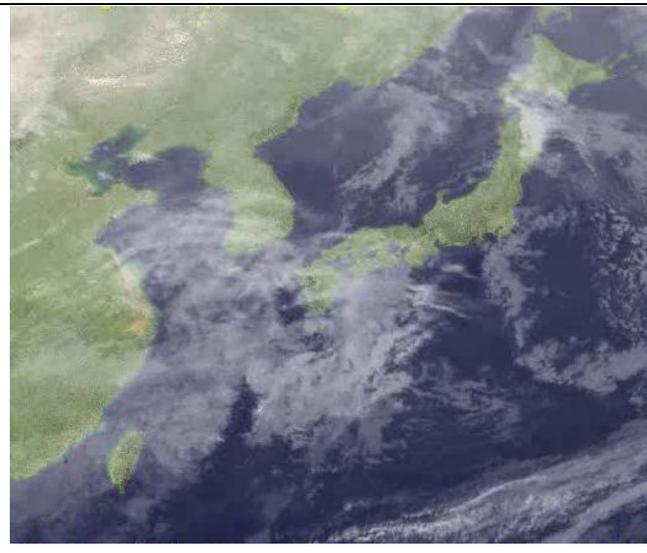
12月25日11時



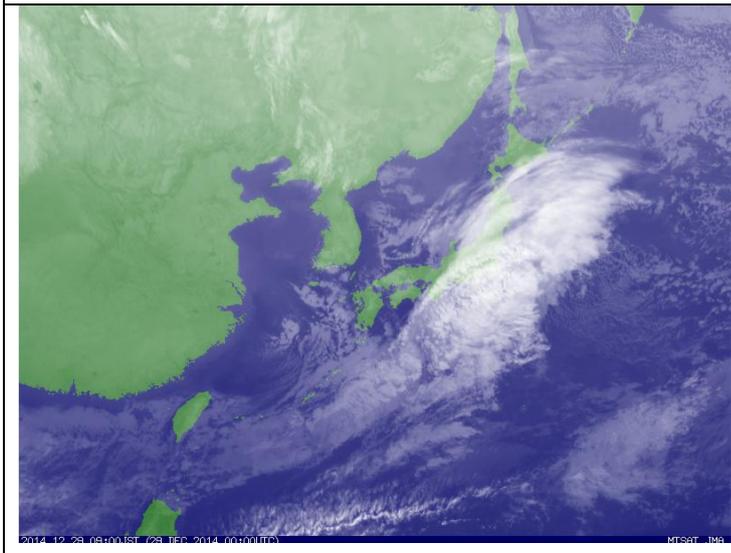
12月26日9時



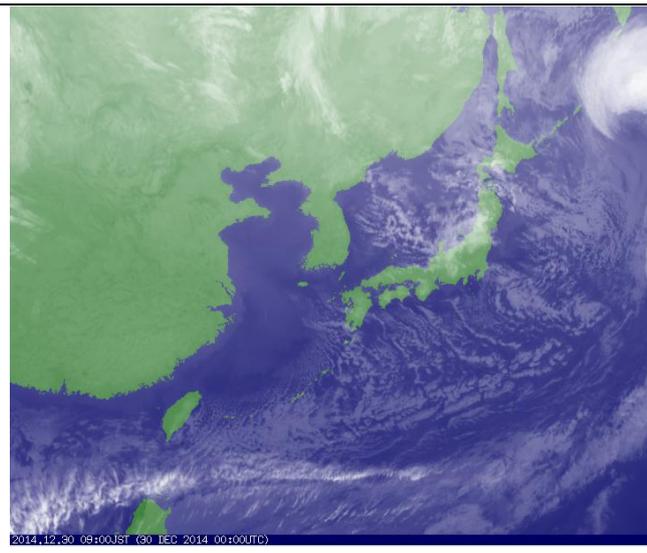
12月27日9時



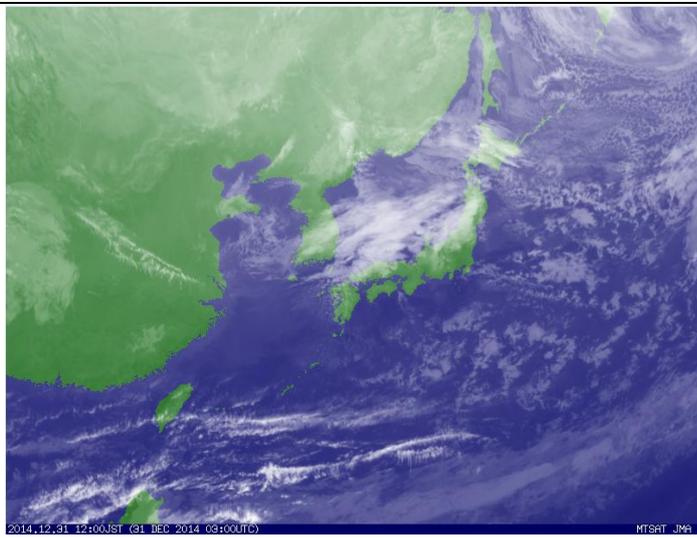
12月28日9時（国立情報学研究所 提供）



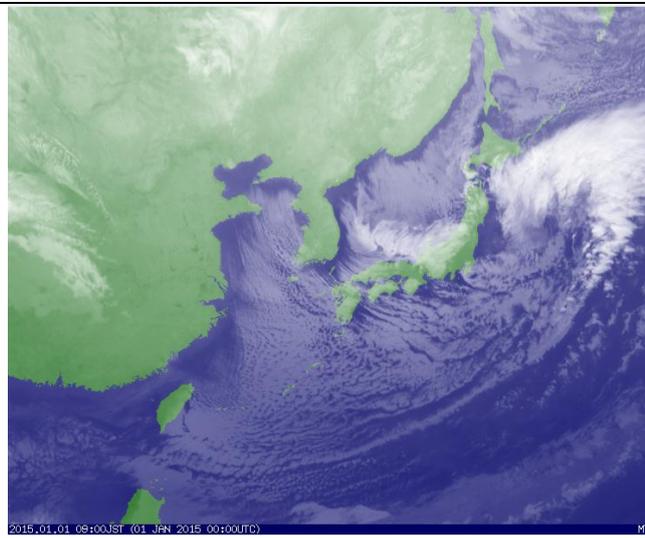
12月29日9時



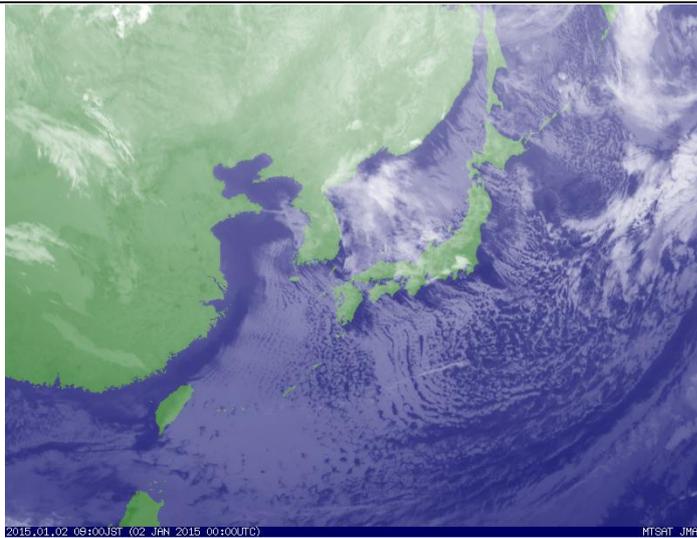
12月30日9時



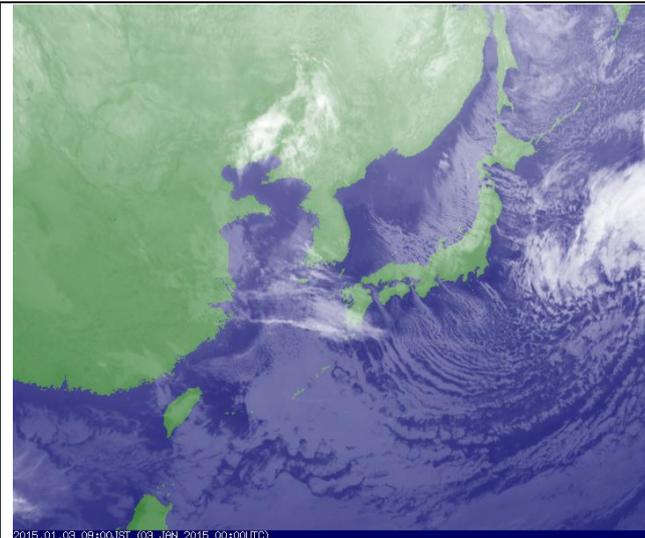
12月31日12時



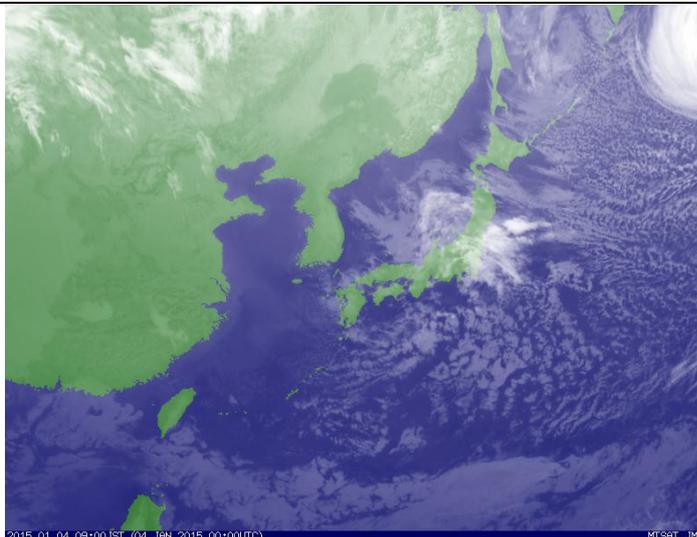
1月1日9時



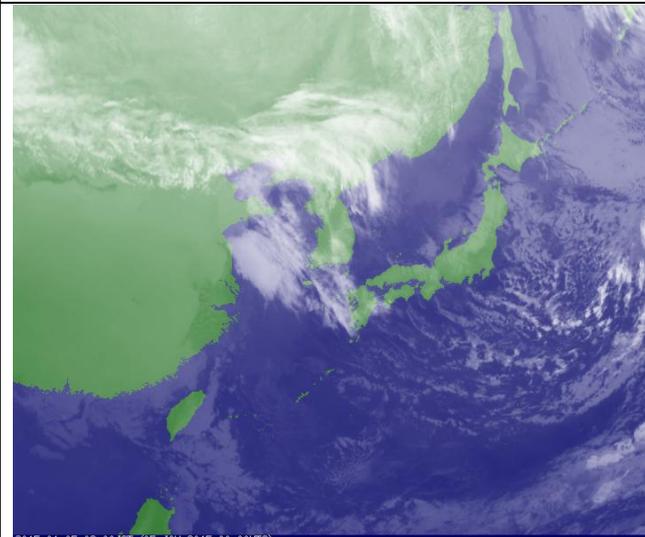
1月2日9時



1月3日9時

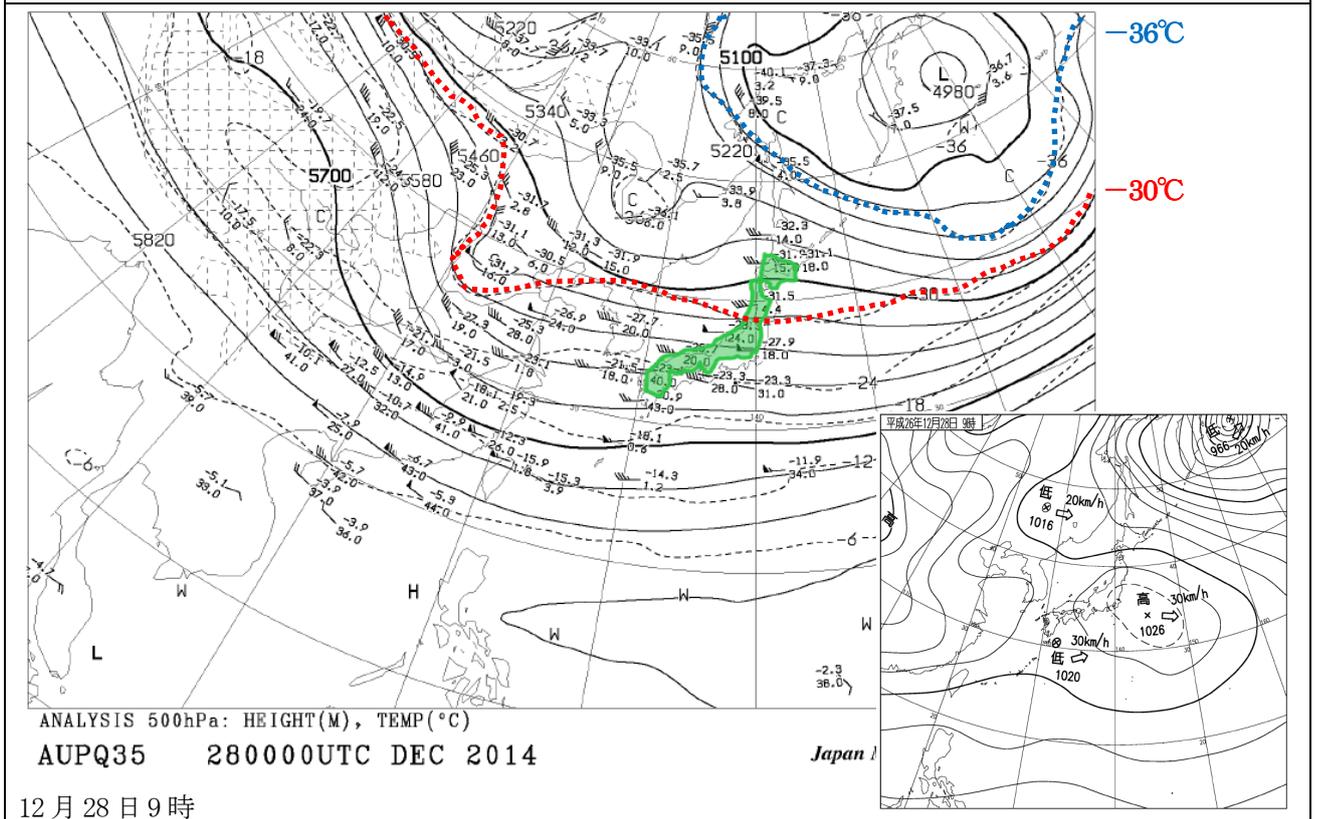
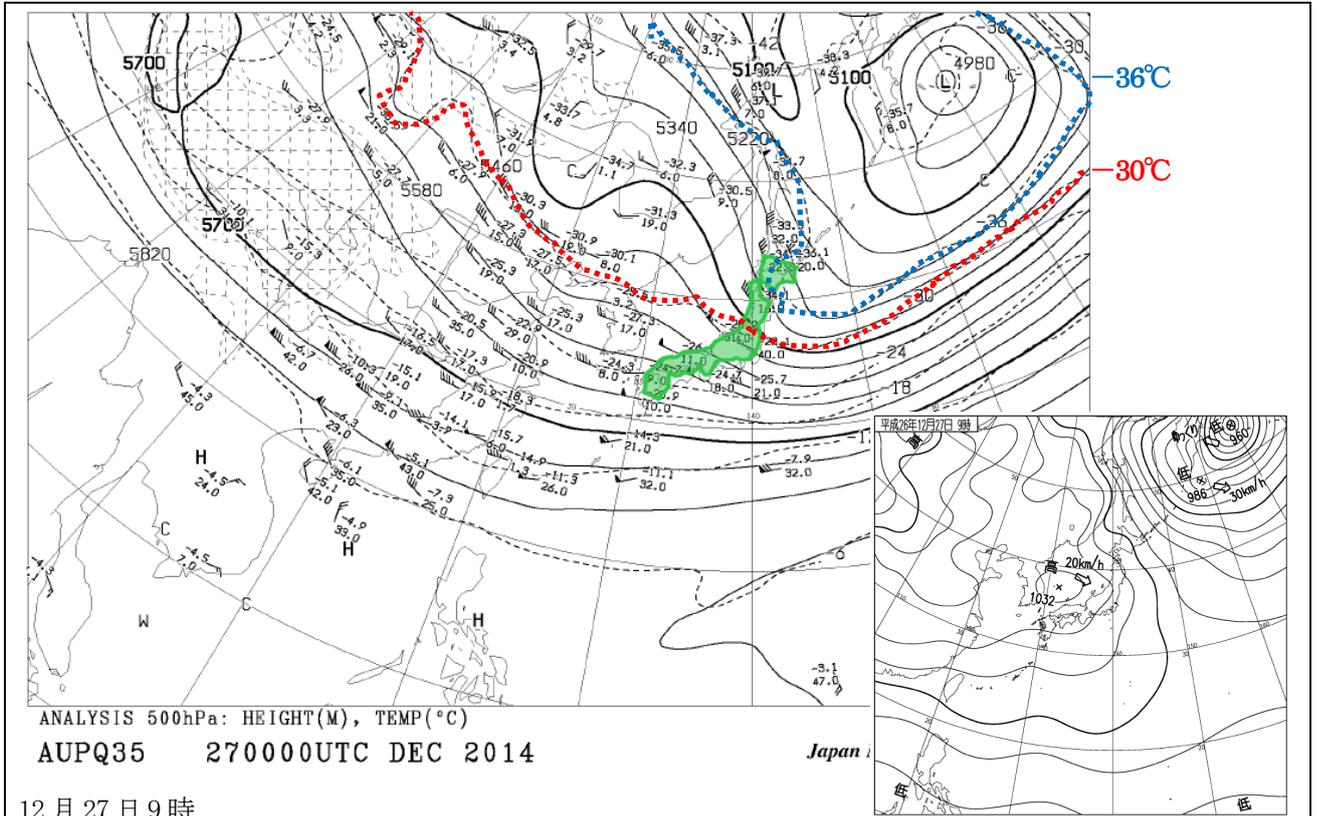


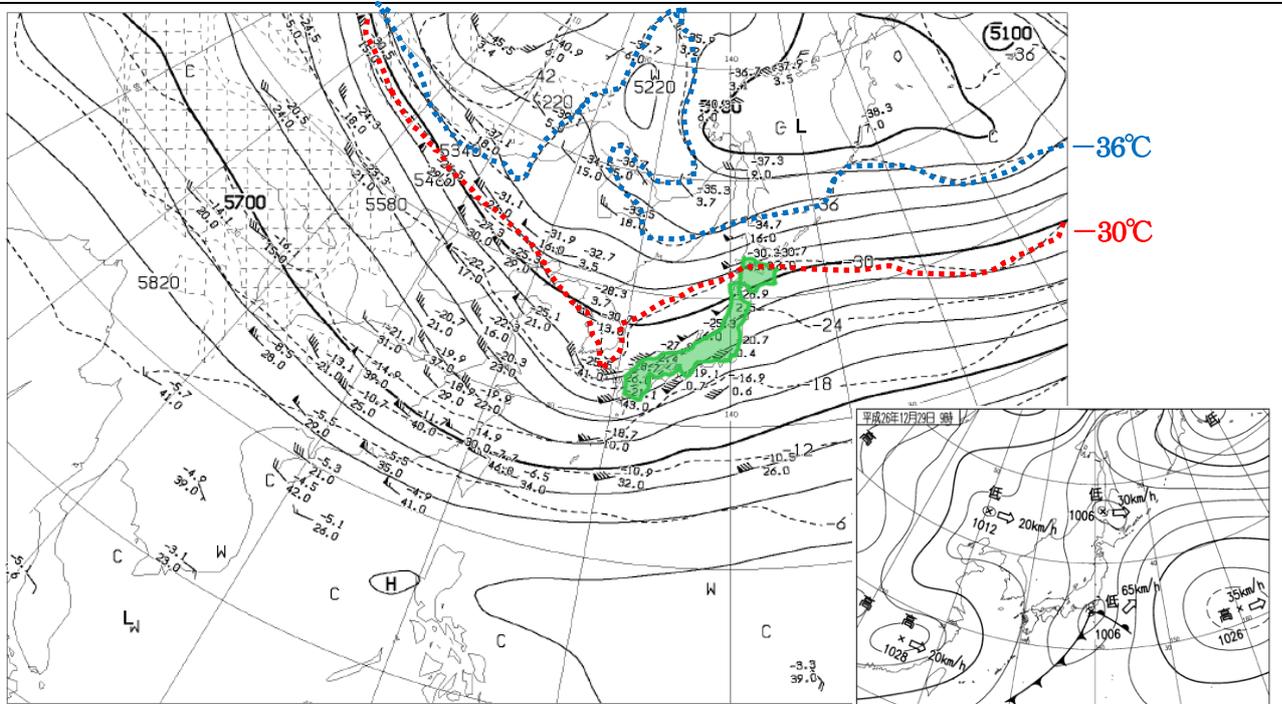
1月4日9時



1月5日9時

2014 年末～2015 年始の 500hPa 高層天気図 (気象庁提供)

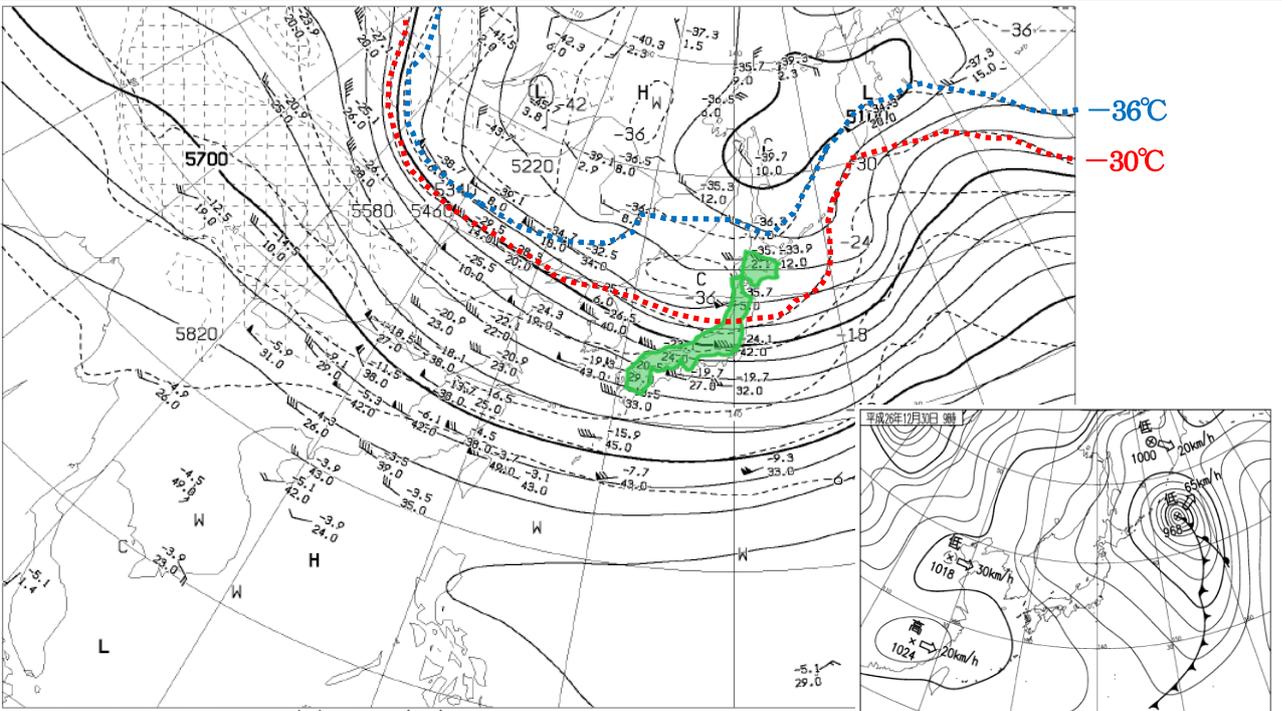




ANALYSIS 500hPa: HEIGHT(M), TEMP(°C)
 AUPQ35 290000UTC DEC 2014

Japan M

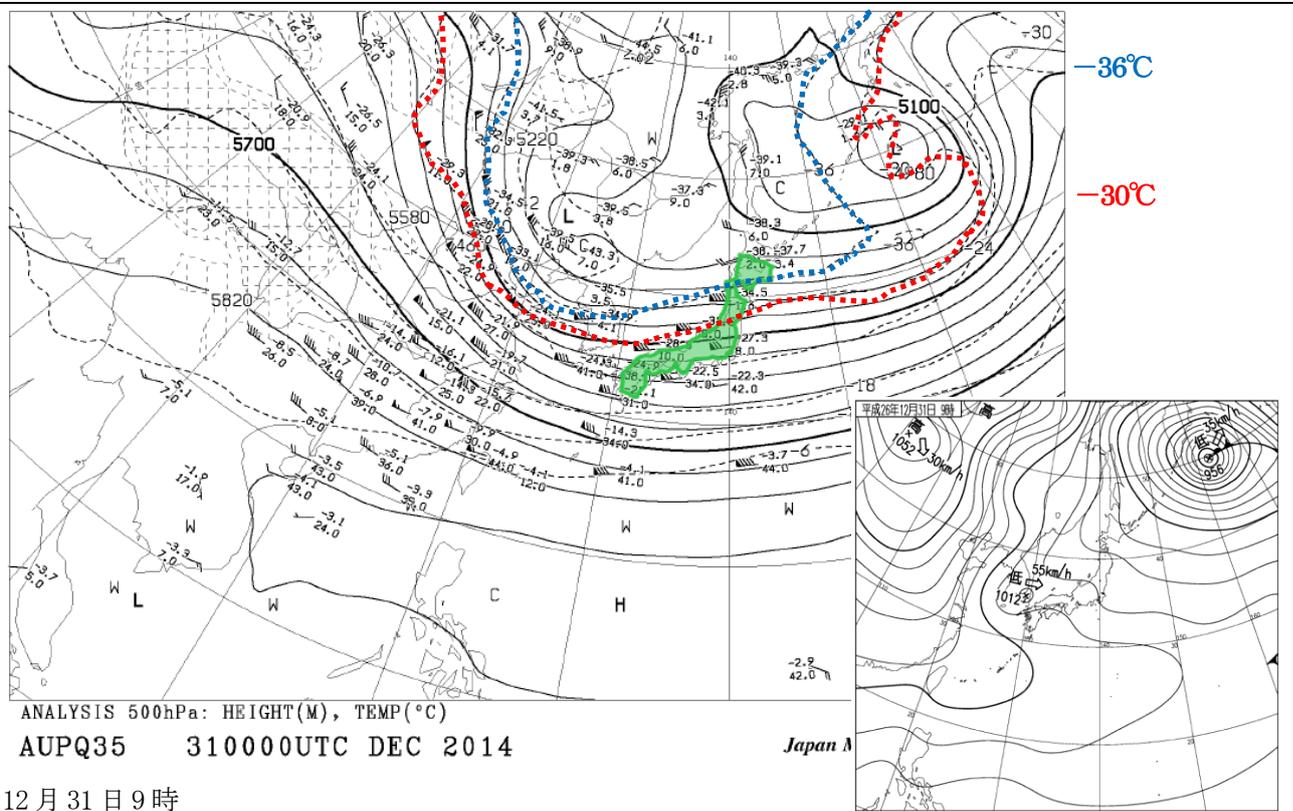
12月29日9時



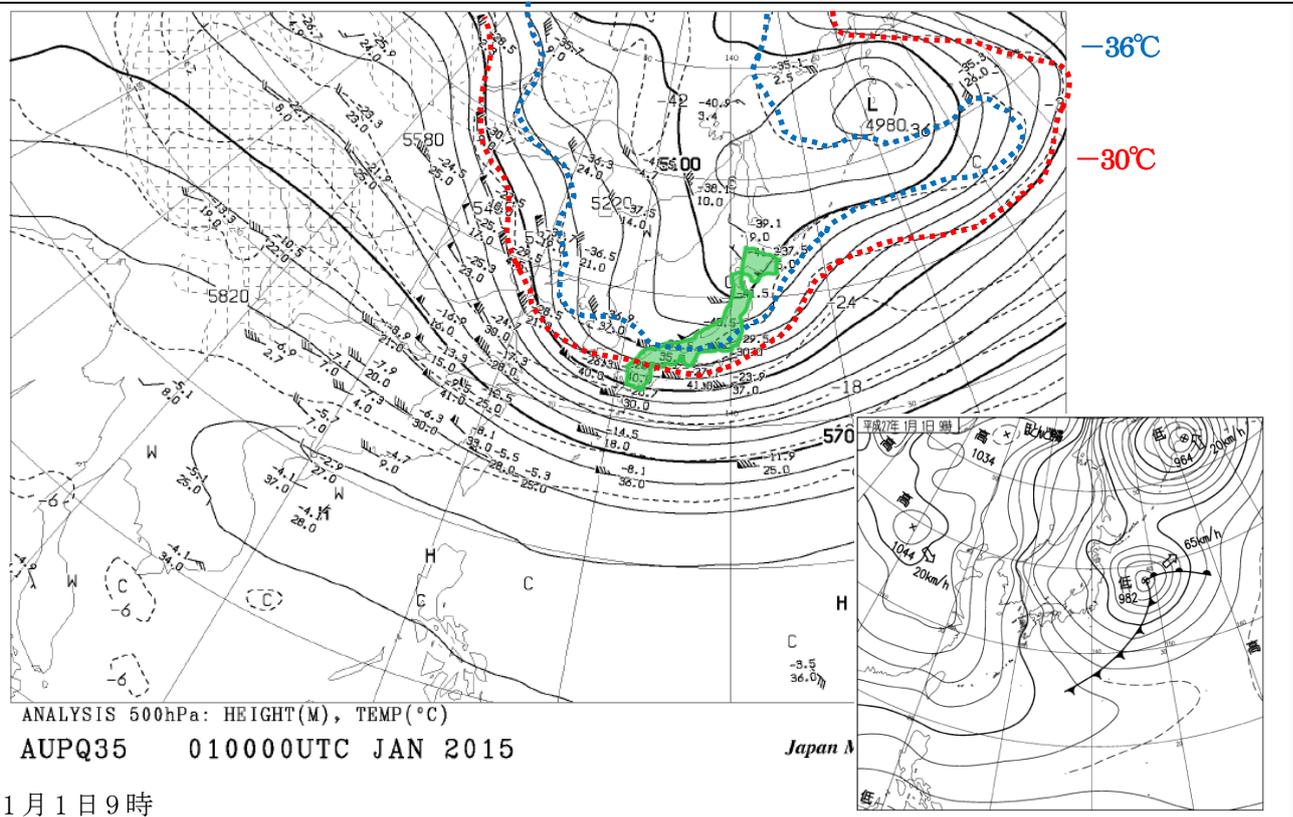
ANALYSIS 500hPa: HEIGHT(M), TEMP(°C)
 AUPQ35 300000UTC DEC 2014

Japan M

12月30日9時



12月31日9時



1月1日9時

2014 年末～2015 年始の富士山の気象データ（気象庁提供）

